

3-4

家庭学習充実に向けた総合的な 取り組みについて

Benesse 教育研究開発センター主任研究員 田中 勇作

はじめに

ここまで本章では、「教師の家庭学習指導力」「保護者の家庭学習支援力」および「校長の家庭学習充実の経営力」が子どもの教科学力や家庭学習力にどのような影響を及ぼすかについて探ってきた。教師の指導力や保護者の働きかけの違いによって子どもの教科学力や家庭学習力に明らかな差異が見られたことは、先行する「基本調査2004」や「基本調査2006」の結果とも合致し、それぞれの取り組みや働きかけの重要性が改めて確認できた。

ただ、本章第3節で述べたように、今回の調査結果からは校長の取り組みと教師の指導力や保護者の支援力との間には必ずしも明確な正の相関関係が認められず、教科学力が芳しくない学校においてその取り組みが積極的に行われているケースも複数確認された。

今後さらなる分析・検証が必要となるが、今回の校長に関わるこうした調査結果は、「教育的な課題を抱える学校においては、リーダーシップや経営力の高い校長が配置され、教師の指導力の向上や家庭の教育力向上に向けての積極的な取り組みが始まっているが、その成果がまだ形として現れていない」という過渡的な状況下の一面を示したものとも推察される。

本節では、そうしたことも踏まえつつ、教師、保護者、校長の取り組み（総合教育力）の発揮パターンによって、子どもの教科学力や家庭学習力にどのような違いが現れるかを調べ、「『教師の家庭学習指導力』『保護者の家庭学習支援力』および『家庭学習充実に関する学校の経営力』の三者が高いときに、子どもの家庭学習力ならびに教科学力は高くなる」という作業仮説6について探っていく。

1 家庭学習充実に関する総合教育力の発揮状況と子どもの教科学力および家庭学習力の関係

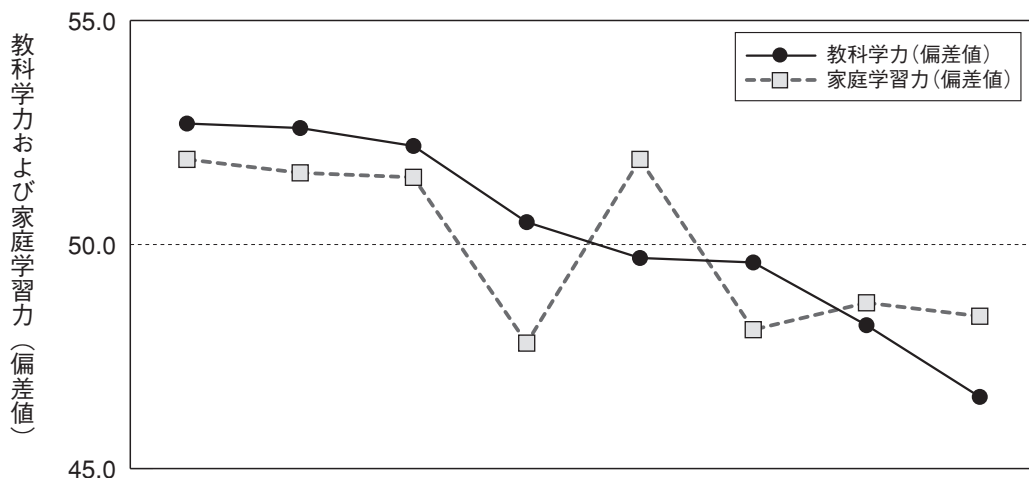
図表3-4-1には、小学校における教師の家庭学習指導力、保護者の家庭学習支援力および校長の家庭学習充実の経営力の発揮状況のパターンと子どもの教科学力および家庭学習力との関係を示した。この図表では、本章第1～3節で見えてきた教師の家庭学習指導力、保護者の家庭学習支援力、校長の家庭学習充実の経営力の各々の総合スコアについて、平均以上を「○」、平均未満を「×」として、今回の調査対象である小5生をA～Hの8パターンに分類し、各パターンに属する子どもの教科学力と家庭学習力の平均偏差値をグラフ化している。また、パターンの順序は教科学力の降順に並べ替えている。

なお、教師・保護者・校長の各スコアについて学校単位で平均スコアを算出し、パターン化を行

うと、調査対象校数の制約からパターンによっては該当件数が1件以下になるケースが複数現れるなど、データのゆらぎが増幅され、その信頼性に疑問が残る。そのため、子ども各人に対して、その保護者の家庭学習支援力、前年度担当した教師の家庭学習指導力、および所属する学校の校長の家庭学習経営力の○・×判定を振り付けており、これまでの3群比較のように学校単位での分類ではないことをお断りしておく。

なお、前述してきたようにここでも教師・校長における取り組みの総合スコアのカテゴリの再編に伴う集計単位の変更等により、「基本調査2008」中間報告書に示した同種の図表とは数値が異なっていることを改めて述べておく。

図表 3-4-1 教師・保護者・校長による総合教育力の発揮パターンと教科学力および家庭学習力の関係(小5生)



パターン	D	B	A	C	F	E	G	H
教師の家庭学習指導力	×	○	○	○	×	○	×	×
保護者の家庭学習支援力	○	○	○	×	○	×	×	×
校長の家庭学習充実の経営力	○	×	○	○	×	×	○	×
教科学力 (偏差値)	52.7	52.6	52.2	50.5	49.7	49.6	48.2	46.6
家庭学習力 (偏差値)	51.9	51.6	51.5	47.8	51.9	48.1	48.7	48.4
構成割合	11.8%	10.4%	12.1%	9.5%	14.8%	10.2%	14.5%	16.6%

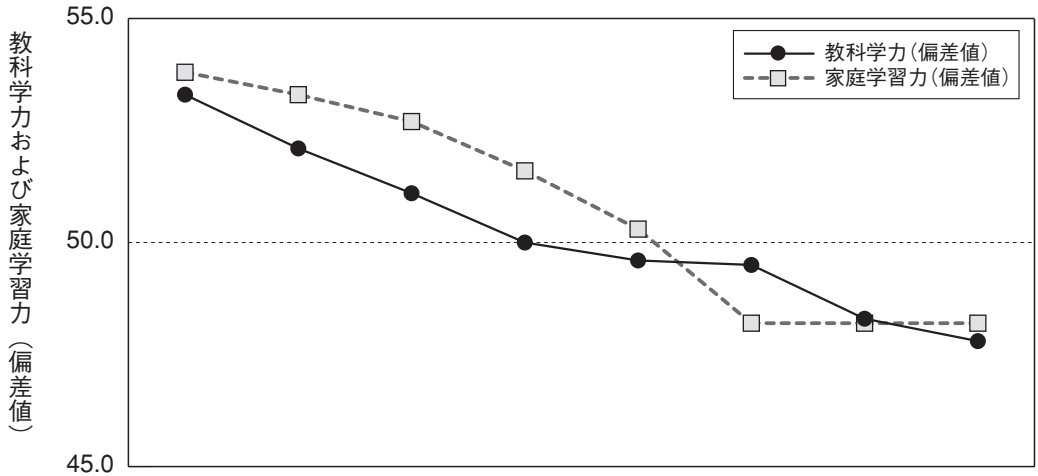
まず、教科学力について見てみると、パターン D・B・A・Cでは基準値50を超え、パターン F・E・G・Hでは基準値を下回り、前者では三者の働きかけのうち少なくともいずれか二者のスコアが「○(平均以上)」となる一方、後者では平均以上となる働きかけが1つまたはゼロとなり、三者の働きかけがすべて「×(平均未満)」となるパターンHの子どもの教科学力が最も低くなっていることが読み取れる。言い換えると、三者のうちいずれか1つの働きかけしかなされていないパターンの子どもにおいては教科学力が低迷ぎみとなり、教科学力向上においては、三者がそれぞれの役割を果たすとともに連携のとれた取り組みが重要であるという「基本調査2004」での結果が改めて確認できる。

さて、家庭学習力に関しては、保護者の家庭学習支援力のみが「○」となるパターンFがパターンDと並んで最も高くなる一方で、逆に保護者の家庭学習支援力のみが「×」となるパターンCで最も低くなるといった対照的な傾向が読み取れる。さらに、教師および校長の働きかけの発揮パターンが同じである2つのパターンを比べると、保護者の働きかけが「○」であるパターンの方が、

「×」であるパターンよりも子どもの家庭学習力は高くなっていることがどの組み合わせにおいても確認できる。(たとえば、教師・校長がともに「○」となるパターンAとパターンCでは、保護者が「○」であるパターンAの方が高い)。見方を変えると、家庭学習力が基準値50を超えるパターンD・B・A・Fにおいては保護者の家庭学習支援力はいずれも「○」となり、逆に基準値50を下回る他の4パターンではいずれも「×」となっており、子どもの家庭学習力の高低を弁別するのは保護者の家庭学習支援力であることが読み取れ、その影響力の相対的な強さがうかがえる。

なお、図表3-4-2には、中2生における教師・保護者・校長の教育力の発揮パターンと子どもの教科学力・家庭学習力の関係を示した。教師・保護者・校長がいずれも「○」となるパターンAで教科学力・家庭学習力がともに8パターン中最も高くなるが、三者がいずれも「×」となるパターンHでは教科学力・家庭学習力がともに基準値前後となるなど、小5生とは異なる傾向を示す。ただ、保護者の家庭学習支援力が子どもの家庭学習力に及ぼす影響に関しては小5生と同様の傾向が確認できる。

図表3-4-2 教師・保護者・校長による総合教育力の発揮パターンと教科学力および家庭学習力の関係(中2生)



パターン	A	F	D	B	H	C	E	G
教師の家庭学習指導力	○	×	×	○	×	○	○	×
保護者の家庭学習支援力	○	○	○	○	×	×	×	×
校長の家庭学習充実に係る経営力	○	×	○	×	×	○	×	○
教科学力 (偏差値)	53.3	52.1	51.1	50.0	49.6	49.5	48.3	47.8
家庭学習力 (偏差値)	53.8	53.3	52.7	51.6	50.3	48.2	48.2	48.2
構成割合	13.6%	11.7%	13.9%	9.3%	11.9%	13.8%	11.5%	14.3%

以上、小・中学生ともに、教師・保護者・校長の三者のバランスのとれた働きかけが子どもの教科学力や家庭学習力を伸ばしていると明確に断言できるだけのデータとはならなかったが、『教師の家庭学習指導力』『保護者の家庭学習支援力』および『家庭学習充実に係る学校の経営力』の三者が高いときに、子どもの家庭学習力ならびに教科学力は高くなる」という作業仮説6については、

ある程度までは確認できたといえよう。なお、「学びの基礎力の育成においては家庭の教育力の効果が大きく見られる」という「基本調査2004」で見た傾向は、家庭学習における学びの基礎力として設定した家庭学習力と保護者の家庭学習支援力との関係においても明確に現れていることを付記しておく。

2 家庭学習充実に係る総合教育力の発揮状況と子どもの教科学力および家庭学習力の関係

以上、子ども個人に教師・保護者・校長の働きかけの状況を当てはめるかたちで三者の働きかけの発揮パターンと子どもの教科学力・家庭学習力の関係を見てきたが、次に、視点を変え、教科学力や家庭学習力が高い学校とそうでない学校においては、教師・保護者・校長の働きかけの発揮状況にどのような違いがあるのかを探ってみたい。

図表3-4-3には、学校単位で子どもの教科学力・家庭学習力の平均スコアを算出し、それを上位・中位・下位の3群に分類したうえで、各群における教師・保護者・校長の各教育力の9つのカテゴリースコアを示した。なお、3群化に際しては各校の平均スコアを偏差値換算した上で60以上を上位群、40以上60未満を中位群、40未満を下位群とした。

図表 3-4-3 子どもの教科学力・家庭学習力の3群で見た教師・保護者・校長による総合教育力の発揮状況について（小学校）

総合教育力のカテゴリー	(1)教科学力スコアによる3群			(2)家庭学習力スコアによる3群		
	A.上位群	B.中位群	C.下位群	A.上位群	B.中位群	C.下位群
教師のF領域スコア(E1 & E2)	56.6	49.2	46.9	54.3	49.0	49.3
教師のA領域スコア(E3 & E4)	58.7	49.0	45.6	51.6	49.3	51.2
教師のN領域スコア(E5 & E6)	58.3	46.9	51.8	50.6	48.4	56.9
保護者のD領域スコア(D1～D3)	53.8	50.1	46.6	59.2	48.9	43.9
保護者のI領域スコア(I1)	54.4	50.4	45.2	57.3	49.1	45.3
保護者のP領域スコア(P1 & P2)	55.9	48.1	50.4	58.4	49.9	40.0
校長のM領域スコア(M1～M4)	55.9	49.2	47.3	56.9	47.3	54.0
校長のO領域スコア(O1 & O2)	56.0	48.3	49.9	54.1	47.5	56.8
校長のE領域スコア(E1 & E2)	52.4	50.3	47.1	52.9	48.0	56.0
総合教育力全体平均	55.8	49.1	47.8	55.0	48.6	50.4

さて、表側に示した9つのカテゴリーは、本章第1～3節で行った因子分析結果を踏まえ、教師の家庭学習指導力、保護者の家庭学習支援力および校長の家庭学習充実の経営力におけるそれぞれの下位領域を、「基本調査2004」の「総合教育力モデル」の枠組みに当てはめ直して示している。たとえば、上の3つは教師の家庭学習指導力(Enrich)に関する因子分析結果から再構成したE1～E6の下位領域を、さらにE1(FANモデルのFSに相当)とE2(同じくFTに相当)をFANモデルの「F」領域に、E3(同AS)とE4(同AT)を同じく「A」領域に、E5(同NS)とE6(同NT)を「N」領域としてくり直し、各領域スコアが教科学力・家庭学習力の上位・中位・下位の各群でどのようになっているかを示している。

また、図表3-4-4では、各群における総合教育力の9つのカテゴリースコアの状況をレーダーチャートとして視覚化した。

まず、教科学力3群における**A. 上位群**について見てみると、教師・保護者・校長のすべての領域スコアで基準値50を大きく上回っており、とりわけ教師のF・A・Nの3領域でスコアが高い。これらのことから、子どもの教科学力は教師の指導力の影響が相対的に大きいものの、教科学力向上に向けては教師・保護者・校長のそれぞれの教育力が総合的に高まることが重要であるこ

とがうかがえる。

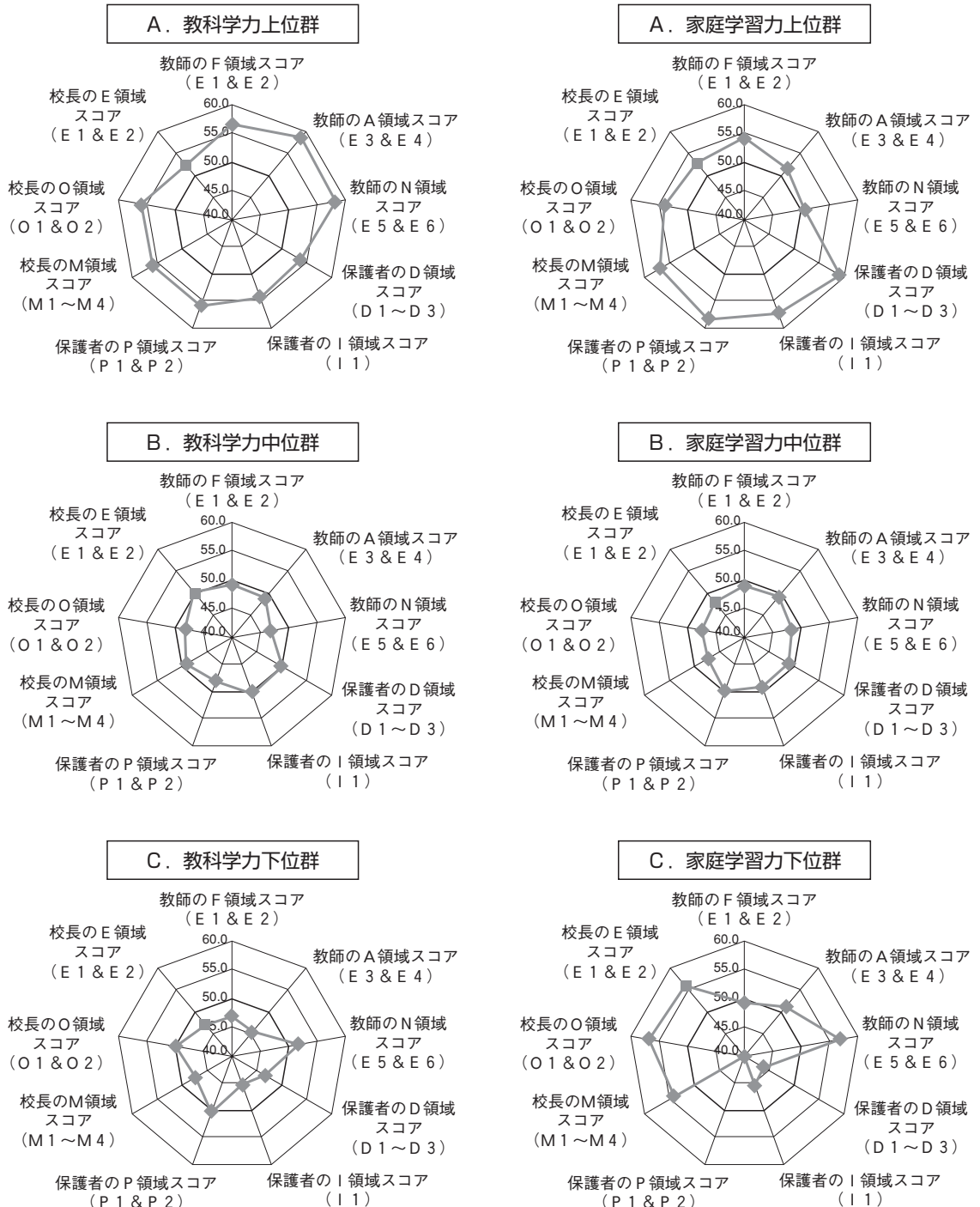
次に、**B. 中位群**について見ると、「教師のN領域スコア(E5 & E6)」で基準値を下回るものの、その他の領域スコアではほぼ基準値50前後となり、平均的な状況となっている。今後のテーマとしては、このN領域に含まれる「家庭学習のガイダンス」や「家庭学習の点検・評価と指導」といった取り組みの一層の強化・充実が望まれよう。

また、**C. 下位群**については、「教師のN領域スコア(E5 & E6)」や「保護者のP領域」および「校長のO領域(O1 & O2)」で基準値を若干上回るものの、他の下位領域では基準値をかなり下回り、全体としては総合教育力が十分に発揮できていない状況が読み取れる。特に教師のF領域(家庭学習の習慣化の促進や家庭学習課題の整備)および同じくA領域(プロジェクト的課題の導入や家庭学習の基礎的指導)といった領域でのスコアが低いと、そうした教師の指導力を下支える教育課程の整備・充実に関わる校長のE領域(総合的なカリキュラム編成や宿題を絡めた授業改善の遂行)も低く、教師の指導力の低さを向上させるための校長の働きかけが十分になされていない状況がうかがえる。また、保護者のD領域やI領域についてもスコアは低く、校長のM領域に関わる家庭学習充実に向けての基本方針策定やその実現に向けてのより強力なリーダーシップの発揮が今後の課題と言えよう。

図表3-4-4 子どもの教科学力・家庭学習力の3群における総合教育力カテゴリースコアのレーダーチャート (小学校)

1) 教科学力3群での比較

2) 家庭学習力3群での比較



さて、家庭学習力について見ると、まず**A. 上位群**では、教師のA領域およびN領域のスコアが相対的に低いものの、他の領域では基準値50を大きく超え、全体では総合教育力がバランスよく発揮されている状況がうかがえる。また、保護者のD・I・Pの各領域はスコアが高く、子どもの家庭学習力に及ぼす影響は保護者の家庭学習支援力によるところが大きいことがここでも確認できる。

次に、**B. 中位群**では各領域とも基準値50を下回り、その中でも校長のM・O・Eの各領域でスコアが低い。恐らくは、個々の教師や保護者の働きかけが子どもの家庭学習力を平均レベルに保っているものと推察される。しかし、子どもたちの家庭学習力を一層向上させていくためには、個々の教師や保護者の働きかけのみに委ねるのではなく、それらの働きかけを最大化すべく学校全体を視野に入れた家庭学習充実の明確な基本方針の策定やその実現に向けた具体的な施策の立案に関する校長の家庭学習充実の経営力の発揮が必要となること、この結果からも推察できるのではないだろうか。この**B. 中位群**に位置する学校においては、『「平均レベル」という現状を是として、積極的な改善の必要性をあまり感じていないことがある」ということをこれまで教育委員会の先生方等からうかがったり、学校を訪問して実感することがある。そうしたことから、平均レベルにある学校が次のフェーズに向かう上でも、校長の先見的な経営力の発揮が期待されよう。

さて、**C. 下位群**について見ると、まず、保護者のD・I・Pの各領域でスコアが極めて低いことが目に付く。このことから子どもの家庭学習力の育成は保護者の家庭学習支援力によるところが大きいことが改めて確認できる。また、校長の働きかけに目をやると、M・O・Eの各領域ともに基準値を大きく超えている。このことは本章第3節でも見てきたように、「課題を抱える学校に経営力の高い校長が配置され、課題解決に向けての積極的な取り組みが始まっているが、その成果は

まだ十分に現れていない」という仮説とも合致する。

なお、**図表3-4-5**および**図表3-4-6**には、小学校に準ずるかたちで中学校に関する比較表とリーダーチャートを示した。まず、**A. 上位群**においては、教科学力では小学校と同様に教師・保護者・校長の三者の働きかけがバランスよく積極的になされていることがうかがえる。ただ、家庭学習力については保護者の働きかけが教師や校長に比べてかなり強く、中学生になると家庭学習力には保護者の支援力が相対的に一層強く働くことを示唆しているとも考えられる。

また、**B. 中位群**においては、どちらもほぼ平均レベルとなっているが、小学校に比べると全体にスコアが高くなり、保護者の3領域が基準値を上回っている点で異なっている。

さて、**C. 下位群**に関しては、教科学力・家庭学習力ともに保護者のD・I・Pのいずれの領域も極めて低くなっていることがまず目を引く。また教科学力に関しては校長の3領域スコアが高くなっており、小学校と同様、「課題を抱える学校においては経営力の高い校長が配置され、課題解決に向けての積極的な取り組みが始まっている」という仮説とも合致する。

以上、家庭学習の充実に関する教師・保護者・校長による総合的な働きかけの状況と子どもの教科学力・家庭学習力の関係について2つの視点から探ってきた。その結果は教師・保護者・校長のそれぞれの働きかけの大切さとともに、三者の総合的な取り組みの大切さが改めて確認できるものであった。また、今回の調査を通して、あくまでも仮説にすぎないが「課題を抱える学校では経営力の高い校長が配置され、課題解決に向けての積極的な取り組みが始まっている」という状況がデータからもうかがえたことは新たな収穫といえよう。今後とも学校におけるそうした取り組みを継続的に追い続け、現状を打破するための総合教育力構築の在り方についての情報を提供していきたい。

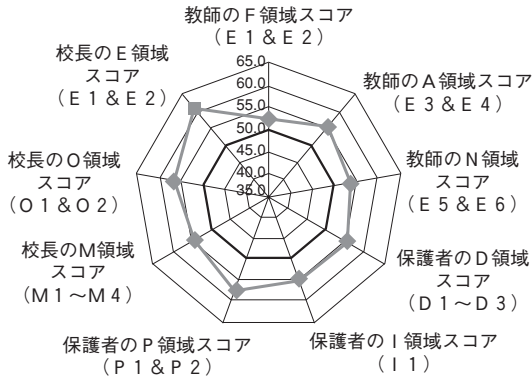
図表3-4-5 子どもの教科学力・家庭学習力の3群で見た教師・保護者・校長による総合教育力の発揮状況について（中学校）

総合教育力のカテゴリー	(1)教科学力スコアによる3群			(2)家庭学習力スコアによる3群		
	A.上位群	B.中位群	C.下位群	A.上位群	B.中位群	C.下位群
教師のF領域スコア(E1 & E2)	52.5	49.6	49.9	50.2	50.6	48.3
教師のA領域スコア(E3 & E4)	55.6	49.0	50.6	53.1	48.0	53.1
教師のN領域スコア(E5 & E6)	53.6	49.8	47.0	49.7	49.2	52.5
保護者のD領域スコア(D1～D3)	55.3	50.2	41.6	53.1	52.3	41.7
保護者のI領域スコア(I1)	54.9	51.1	35.0	52.5	51.3	44.6
保護者のP領域スコア(P1 & P2)	57.3	49.8	41.8	56.2	51.5	41.4
校長のM領域スコア(M1～M4)	54.2	48.8	53.8	46.9	51.7	47.9
校長のO領域スコア(O1 & O2)	56.4	47.8	59.4	47.1	50.0	52.0
校長のE領域スコア(E1 & E2)	60.9	47.7	53.5	52.1	50.8	46.2
総合教育力全体平均	55.6	49.3	48.1	51.2	50.6	47.5

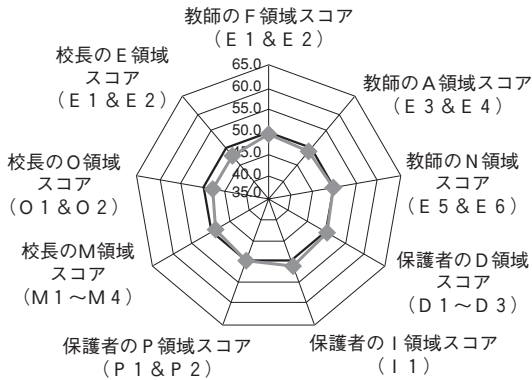
図表3-4-6 子どもの教科学力・家庭学習力の3群における総合教育力カテゴリースコアのレーダーチャート
(中学校)

1) 教科学力3群での比較

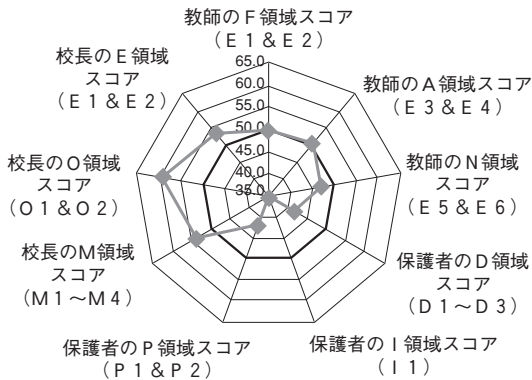
A. 教科学力上位群



B. 教科学力中位群

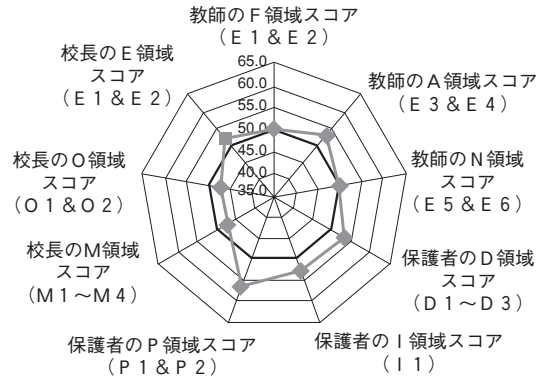


C. 教科学力下位群

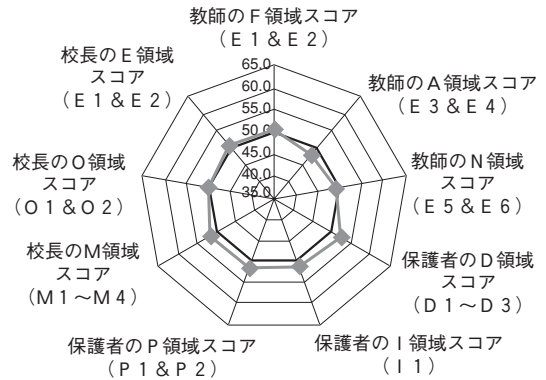


2) 家庭学習力3群での比較

A. 家庭学習力上位群



B. 家庭学習力中位群



C. 家庭学習力下位群

